

令和4年度 第11号 令和5年3月9日

鶴川 星

阿久根市立鶴川内中学校

校訓

スクールコンセプト

ともに夢と希望を育む鶴川内中

協 自 自
調 律 主

一 校 一 風

育てよう花と心と大きな夢を

校長室の窓から『濃(こまや)かに 弥生の雲の 流れけり』夏目漱石

校長 井久保 康彦

密度のある弥生(三月)の雲が上空に流れていく様子を夏目漱石はこのように表現しました。冬の快晴から一転して、湿度が上がって白い雲がよく見えるようになった春ののどかな風景が目に見えそうです。

さて、三月(弥生)になりました。三月は期が革まるときとも言われます。いろいろな目標が次の目標へと変わり、そこには喜びと悔しさが生まれ、人も入れ替わることで社会や組織が変化することになります。

本校の3年生もいよいよ雄飛のときを迎えます。これまで学校のリーダーとして鶴川内中76年の歴史が培ってきた伝統を守りながら下級生の先頭に立って頑張ってくれました。体育大会では、伝統の鶴中ソーランや応援演舞に多くの時間を割いて練習に取り組みました。また、文化祭では、学年ごとに劇や学習の成果を発表しましたが、3年生の劇への取組は下級生の手本となる素晴らしいものでした。少ない人数でも、どこの学校にも見劣りしない素晴らしい学校行事の取り組みができたのは、3年生の頑張りリーダーシップの成果に他なりません。

人生は旅に例えられますが、その長い旅路においては、多くの困難や挫折に見舞われることでしょう。しかし、夢の実現のためには、強い意志(明確な目標を持ち)と周到な準備(知力と体力を身に付ける)があれば、きっと成功をおさめることができるのではないのでしょうか。卒業生の前途に幸多かれと祈りつつ松下幸之助さん(パナソニックグループ創業者)の詩を贈ります。

道

自分には自分に与えられた道がある。どんな道かは知らないが、他の人には歩めない。自分だけしか歩めない。二度と歩めぬかけがえのないこの道。広い時もある。せまい時もある。のぼりもある。せまい時もある。坦々とした時もある。かきわけかきわけ汗する時もある。

この道が果たしてよいのか悪いのか、思案にあまる時もある。う。なぐさめを求めるときもある。しかし、所詮はこの道しかないのではないか。

あきらめると言うのではない。いま立っているこの道、いま進んでいるこの道、ともかくもこの道を休まず進むことである。自分だけしか歩めない大事なことではないか。自分だけに与えられているかけがえのないこの道ではないか。

他人の道に心をうばわれ、思案にくれて立ちすくんでいても、道は少しも開けない。道をひらくためには、まず、進まねばならぬ。心を定め、懸命に歩まねばならぬ。

それがたとえ遠い道のように思えても、休まず歩む姿からは必ず新たな道が開けてくる。深い喜びも生まれてくる。

(松下幸之助『道をひらく』より)

令和4年度も本校を温かく見守り支えていただきました地域や保護者の皆様方をはじめ多くの方々に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

鶴川内中学校の伝統と心意気は卒業生を見送る在校生にしっかりと引き継がれ、これからも頑張ってもらいますので、今後とも本校の教育活動に対しまして、御理解と御協力をお願い申し上げます。

主な行事予定

月	日	曜	3月~4月の主な行事
3	9	木	送別球技大会
	13	月	同窓会入会式 卒業式予行
	14	火	第76回卒業式(下記参照)
	15	水	公立高校合格発表
	24	金	修了式, 辞任式(11時~)
4	5	水	入学式準備
	6	木	新任式, 始業式, 入学式
	7	金	PTA役員会・評議員会
	10	月	スコラガイダンス
	11	火	家庭訪問(~14)
			11・12(多田・校区外) 13・14(鶴川内・校区外)
	17	月	交通安全教室
	18	火	全国学力・学習状況調査
	25	火	2・3年実力テスト(~26)
	26	水	生徒総会
27	木	PTA総会, PTA歓迎会 防災訓練(引渡し訓練)	

第76回卒業式・第77回入学式について

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、第76回卒業式並びに第77回入学式は、卒業生、在校生、卒業生保護者、学校運営協議委員のみの参加で行います。

従いまして、御来賓の卒業式の御臨席を御遠慮申し上げることとしましたので、御理解と御協力をお願いいたします。

卒業を目前に

3月14日(火)、第76回卒業式を行います。10人の卒業生となります。

いつもできる。
自然と体が、頭が動く。
それが習慣。それが生活。
「喜積が奇跡を生み、人生の美しい軌跡となる」
誠に残念ではありますが、本年度も規模を縮小した卒業式となります。
3年生全員が支えてくださったすべての方々に感謝を述べています。



今年度全学年集合写真



今年度卒業生集合写真

★卒業を前に

約3年前。始業式があってからというものとにかく時間がある限り、きみらのために何かできることはないか探す日々が始まった。我武者羅になれる瞬間があった。もっとよくしたい。全員が善い方向に向かってほしい。思いの分かる、本物を少しでも分かる、凛とした生徒になってほしい。それが我々の1つの夢だった。だからこの1年間、見放さない。嫌われてもかまわない。好かれようとも思わない。社会に出てしっかり自分の足で立てる心ある人を育てたい。そのために令和だった。輪だった。事あるごとに先生方と話した。時には悲しいこともあった。嬉しいこともあった。泣く日もあった。笑い合った日々があった。

約3年経った今、きみの顔を見れば、心境を察することができ、きみも察してくれるきみたちの卒業準備をし、卒業を迎える。夢が現実となる。この瞬間が実は一瞬なのだ。刹那的でもある。もしかすると、人は、夢に向かって努力している方が叶えるより幸せなのかも知れないと思う瞬間でもある。しかし、静かに時を刻まれる。卒業式。これは何度もやってくるものではない。中学3年というこの瞬間はきみにとっても他の人にとっても1度しか訪れない。誰であっても最後で最初の卒業式。

何も必要ない。全員が一丸となり声を合わせる。礼1つ、起立1つ、着席1つ、一挙手一動を仲間とそろえ、あるべき姿で思いをもつ。それで伝わるものがある。その動きで3年間の重みを背中で語れる姿であってほしい。卒業証書授与は一人一人が自ら考えて行動を起こす。舞台上その姿をしっかりと披露する。姿勢というもの1つで伝わる。感謝、成長、抱負、希望…。「姿の勢い」＝「姿勢」＝「オーラ」なのだ。

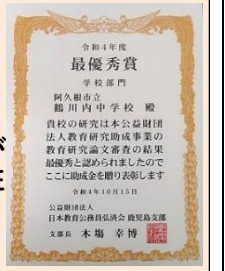
担当がきみの名を呼ぶ。名には親御さんの思いが込められている。「はい」と明るく重く元気に潔く返そう。その短い短い呼応の中に血が通い、思いが伝わるものにしてしよう。きみの「はい」という返事を耳に焼き付ける。

名を呼ぶことをきみへのはなむけの言葉とし、「はい」の中にきみと訣別の時を迎えることにする。素晴らしい別れ方だ。短い別れ方だが、我々にとっては、とてつもなく深く長い思いが込められている。そして卒業証書を受け取り降壇する。15の春を迎えられない人も世界には多い。生きていくことに感謝し、生きていくことを決意する瞬間になるといい。卒業までの日々。あたりまえのことをあたりまえにして終えよう。別れ方が肝心だ。

日教弘教育賞最優秀賞(学校部門)

県内の小中学校において本校の研究実践が最も優秀な取組だったということで表彰いただきました。

生徒、保護者、教職員が一体となって取り組んだ証です。今後も研究・修養に努めてまいります。



避難訓練

3月7日(火)に、市消防士の方々に来ていただき、火災を想定した避難訓練を行いました。



今年度最後の防災訓練を行いました。約3年ぶりに消防車で来ていただき、消火器の使い方や放水体験等、充実した学びができました。

送別球技大会

3月9日(木)に、生徒会が企画した送別球技大会(バスケットボール)がありました。



昨年度同様に、生徒会活動を活性化し、自主性、主体性、創造性を養うため、生徒会で企画した送別球技大会を全学年で行いました。今年度のまとめとしてふさわしい時間になりました。

公立高校入試事前指導

3月2日・3日の高校選抜学力検査に向け、面接練習も行い、前日に事前指導を行いました。



前日に事前指導を行い、当日の準備物などを確認しました。緊張している生徒が多く、筆記試験、面接のそれぞれに課題を見いだしていました。取組は満点でした!